

## 日本社会福祉学会の今後の方向を問う

### 「21世紀の日本社会福祉学会の組織・ 運営のあり方委員会」からの報告

委員長 白澤政和

「21世紀の日本社会福祉学会の組織・運営のあり方委員会」は日本社会福祉学会第48回全国大会が開催された昨年11月3日の理事会で承認を受け、7名の委員が指名され、学会会長の諮問機関として発足しました。その趣旨は、本学会が約50年の歴史を刻み、会員が約4千人を擁する大組織に成長してきましたが、そうした大組織のもつ弊害も生じつつあります。それらを点検・改善し、今後の本学会の方向を導き出すことであります。そこで、委員会では、4回の委員会を重ね、別紙（同封）のような中間報告書を作成するに至りました。

本中間報告書を本年3月3日の理事会に報告し、理事よりご意見を頂戴しました。

同時に学会ホームページに掲載し、会員の皆様から3月末まで意見を募ってきました。未だ多くの意見・提案を聴取できず、今回の学会ニュースでもって再度ご意見を募ることとしました。会員の皆様からご意見・ご提案がありますれば、6月20日までに学会事務局宛郵送、ファックス、メールでご連絡下さい。7月14日に開かれる理事会に提出する最終報告書に、できる限りご意見を反映させたいと考えています。

中間報告書の要旨は、「学会運営のあり方」、「福祉系の諸団体との関係」、「学会組織のあり方」の三点について検討しています。

- ・「学会運営について」は、全国大会、地方部会、機関誌等のあり方について検討を行い、具体的な提案を行っています。
- ・「福祉系の諸団体との関係」では、国内の大学・学会・団体との協力関係、および国際的な学会との連携について検討しています。
- ・また「学会組織のあり方」では、法人化や会員資格、役員選出方法や理事会機能、事務局体制等について議論し、具体的提案を行っています。

ここで検討した内容は、本学会が研究レベルを高めるための条件整備を行い、会員の多様化の中で日本社会福祉学会としてのアイデンティティを確立していくことを前提にして議論がなされたといえます。さらに、そうした中で、すべての会員が学会運営にできる限り参加し、運営業務をシェアし合っていくことを求めています。

今後の予定では、この最終報告書にそって、理事8名での作業委員会が、直ちに実施することと、今後に残されたことを整理し、前者に関する学会内規の見直し等は、理事会での議を経て、10月21日の沖縄学会総会で理事会提案されることになっています。また、報告書で提案する学会運営についても、同様の経過のもとで次期理事会から開始されることとなります。

本報告書の内容は、日本社会福祉学会の運営・組織のあり方を見直し、今後のあるべき方向を具体的に提案したものであります。この内容が学会の将来を方向付けるものである以上、多くの会員より是非ご意見・ご提案を頂きたいと願っています。そのことが、社会福祉に関するリーダー的学会として、先駆的で積極的な役割を果たしていくことになると考えています。



# 日本社会福祉学会

## 2000年度第3回理事会報告

時間…2001年3月3日  
会場…日本子ども家庭総合研究所  
出席者…理事/別掲のとおり  
・オブザーバー

第49回大会委員長 川添 雅由  
事務局長 保良 昌徳  
事務局次長 上地 武昭  
事務局 小林 萬里子

### 《会長挨拶》

本学会も会員が4000名近くになり、21世紀の日本社会福祉学会のあり方を考えていく必要があり、委員を委嘱し検討していただいた。中間報告が提出されたので、理事だけでなく広く会員にも検討をお願いしたい。

### 《審議事項》

#### 第1号議案 第49回大会について

おおむね要綱はできた。会場が宜野湾市で、懇親会が那覇市なので、送迎が難しい。

1日目に予定が多いので、総会を2日目にする。

#### 【審議】

- ・懇親会が滞りだすと、天候不順の際の懇親会の検討が必要。
- ・基調講演（記念講演）は沖縄の福祉の語り部などがよいのでは。
- ・基調講演は、アパスエアジア・太平洋地域社会福祉学校教育連盟会長などをお願いしたいところだが、通訳の問題で無理であろう。

#### 第2号議案 第50回大会について

基調講演に緒方貞子さんなども考えている。また記念になる刊行物も作りたい。

沖縄大会でミニシンポをし、50回大会でシンポにもっていくという形がよいのでは。

#### 第3号議案 第51回大会について

大阪府が近年大会を開催していないので、大阪府内の大学で検討していただいたところ、四天王寺国際仏教大学で内諾いただいた。宿泊場所と大学所在地が遠く、交通の便など種々考えるべきことはたくさんあり、1校だけではたいへんなので、府内の大学が協力して、進めていく形をとる。

#### 第4号議案 「21世紀の日本社会福祉学会の組織・運営のあり方委員会」報告について

理事会で検討するだけでなく、ホームページに載せたり、学会ニュースに掲載し（別冊）、広く会員の意見も募集する。7月の理事会で完成し、10月の総会にはかりたい。

### 【概要説明】

- ・全国大会…理事会がサポートする。
- ・地方部会…理事の選出方法に問題はないか、要検討。  
中・四国部会の分離、沖縄県の独立等など。
- ・理事の強化…理事会を何度も開催できないので、複数担当理事がいる場合チーフを決め、運営委員として正副会長と協議を進め、機動性をもたせる。  
7月までに運営委員と宮田理事、杉村理事に加わっていただき、さらに検討を進めたい。

### 【審議】

- ・学会全体では今、アカデミーではない方向になっている。他学会から修士に入学して半年で学会発表ができることに驚かれる。
- ・「親学会」という言葉があるが、どう位置付けていくのか。
- ・大会での発表論文の審査の必要性もいわれるが、実際には今の発表数では無理。
- ・機関誌を年4回発行する形にするには、今の機関誌『社会福祉学』が2回、JJSS(英文誌)と大会要旨集をフルペーパー提出の形していく方法もある。
- ・地方部会の位置付けは、独立した学会のように活動しているところもあるし、いずれ連合体のようになるのか。地方学会での発表と全国大会での発表をどう位置付けるのか。
- ・理事会強化、事務局強化という文言があるが、次代を先取りするような、具体案が必要。

#### 第5号議案 役員選挙について

投票率をあげるために、今回は大学が夏休みに入る前に投票用紙を配布し、7月20日ぐらいに投票締め切りとする。

#### 第6号議案 名誉会員推挙について

3名について内諾を得て、秋の総会で推挙したい。

#### 第7号議案 「ヒトゲノム・生命倫理と社会福祉」検討特別委員会

科学分野からみると個人情報 の保全などが立ち遅れている(調査をした後の情報の保全対策委員会など)生命倫理の問題も今後取り組まなければならない。

#### 第8号議案 「社会福祉学研究振興委員会」について

登録学協会の世話学会→日本社会福祉学会  
文部省科研費 →日本社会福祉学会  
今回科研費の審査では、独自の審査項目を作って審査し、コメントをつけたが、学術振興会からこれについて質問もあり大変な時間がかかった。  
細目を独立させる件は、認められれば、2003年からとなるが、審査も独自にしなければならぬ。

#### 第9号議案 学会50周年記念事業について

宇都先生（専修大学）を中心に活動している。



**第10号議案 機関誌について**

42巻2号への29篇を査読中。

査読基準が具体的に開示されていない場合がある。

早々に開示したい。

**第11号議案 地方部会について**

4月までに年度報告を出し、機関誌に掲載する。

**第12号議案 ソーシャルケアサービス従事者研究協議会および社会福祉士問題等検討の集いの件**

教材のあり方、実習のあり方をさぐるなど、社会福祉士問題についてはシラバスの見直しを検討するシンポジウムを開催する。

**第13号議案 退会について**

会費未納者について退会とみなす。

連絡先不明者のうち、学会ニュースに掲載してもまだ分からない会員については、再度学会ニュースで退会の通告を掲載し、次回理事会で退会をみとめる。

退会申請のあった46名について退会を認めた。(氏名別掲)

**第14号議案 会員入会審査について**

申し込みのあった91人について入会を認めた。(氏名別掲)

**《報告事項》**

① 韓国社会福祉学会からの招待について

4月21日22日に開催される韓国学会には、岡本民夫副会長と白澤政和編集担当理事にお願いします。

② 日韓社会福祉留学生学術交流準備委員会

韓国人留学生だけでなく日本人院生も入って交流していく。当面は、費用の都合で関東を対象とし、将来は、関東だけでなく可能であれば、全国の留学生との交流会としていく。

|               |           |   |
|---------------|-----------|---|
| 会 長           | 大 橋 謙 策   | ○ |
| 会長職務代行・関西担当理事 | 岡 本 民 夫   | ○ |
| 総 務 担当理事      | 高 橋 重 宏   | ○ |
| 研 究 担当理事      | 小 田 兼 三   | 欠 |
| 渉 外 担当理事      | 古 川 孝 順   | 欠 |
| 機関誌 担当理事      | 白 澤 政 和   | ○ |
| 庶 務 担当理事      | 田 端 光 美   | ○ |
| 北海道 担当理事      | 杉 村 宏     | ○ |
| 東 北 担当理事      | 佐 藤 嘉 夫   | ○ |
| 関 東 担当理事      | 山 崎 美 貴 子 | 欠 |
| 中 部 担当理事      | 高 島 進     | 欠 |
| 中・四国担当理事      | 鈴 木 勉     | ○ |
| 九 州 担当理事      | 保 田 井 進   | ○ |
| 理 事           | 一番ヶ瀬 康子   | 欠 |
| 理 事           | 右 田 紀 久 恵 | ○ |
| 理 事           | 岡 本 栄 一   | 欠 |
| 理 事           | 京 極 高 宣   | ○ |
| 理 事           | 田 代 国 次 郎 | ○ |
| 理 事           | 三 浦 文 夫   | 欠 |
| 理 事           | 宮 田 和 明   | ○ |
| 監 事           | 佐 藤 進     | 欠 |
| 監 事           | 中 垣 昌 美   | ○ |

**新入会員 (91名) 2001年第3回理事会承認**

- 相澤 陽子 郡山大学大学院
- 京美 子 株式会社コモン計画研究所
- 山崎 美子 東京国際福祉専門学校
- 秋山 修子 浦和市役所
- 山崎 道博 (社福) ももぞの学園
- 有岡 日真子 四天王寺福祉事業団四天王寺さんめい苑
- 伊藤 井上 龍谷大学大学院
- 藤井 波珠 上智大学大学院
- 伊波 礼子 琉球大学大学院
- 今泉 香子 郡山女子大学
- 岩崎 容子 東京武蔵野病院
- 上野 健児 社会福祉法人 豊心会
- 臼井 美奈子 東京都立大学大学院
- 江口 美佐子 上智大学大学院
- 大川 純純 川崎医療福祉大学大学院
- 大城 龍男 沖縄大学
- 大平 幸裕 横浜市総合リハビリテーションセンター
- 小川 治子 (社福) 高須会 こもれび学園
- 奥野 修嗣 北星学園大学大学院
- 小野 修嗣 福岡県立大学大学院
- 小山 千絵 国士館大学福祉専門学校
- 原田 美秀子 九州看護福祉大学
- 榎田 倉原 上智大学大学院
- 柏倉 藍子 徳島大学
- 加藤 嘉史子 愛知県立名古屋盲学校
- 加美 上池 長崎大学大学院
- 川上 真弓 北海道道庁井学園大学
- 菊池 小池 専修大学大学院
- 小越 弘子 専修大学大学院
- 谷玉 龍純 東京大学医学部附属看護学校
- 小斎 藤下 沖縄大学
- 藤山 恭子 大阪医専
- 佐藤 充孝 東北大学大学院
- 柴田 孝孝 青森県立保健大学
- 島袋 麻世 佛教大学通信制大学院
- 新里 錦成 医療法人敬愛会 中頭病院
- 菅沼 鈴村 須藤 関谷 早田 高橋 高村 竹内 田原 寺田 豊田 仲野 永南 新鞍野 野村 早瀬 原田 東久 平松 平松 黄島 藤井 藤船 古松 的場 九道 三橋 村上 村上 八木 吉田 渡部
- 櫻子 紀子 代也 ぶ 美 妙 子 一 子 晃 保 代 美 二 由 美 規 朝 理 子 樹 和 圭 一 宏 津 子 美 幸 夫 子 朋 道 夫 令 佳 恵 一 郎 康 子 秋 進 真 人 彦 英 清 充 雅 代理 芳 彦
- 山崎 美子 聖路加国際病院医療社会事業科
- 熊本 県立保育大学校
- 日本社会事業大学大学院
- 北陸ビジネス福祉専門学校
- 大妻女子大学
- 花園大学大学院
- 東洋英和女学院大学
- 広島大学大学院
- 日本社会事業大学大学院
- 立命館大学
- 長崎県立盲学校
- 東久留米市東部在宅介護支援センター
- 東海大学
- 名古屋女子大学家政学部
- 東北大学大学院
- 北星学園大学大学院
- 福山平成大学
- 龍谷大学大学院
- 名古屋大学大学院法学研究科
- グラングム総合学院 新宿校
- (株) ライフデザイン 研究所
- 新潟県福祉保健部障害福祉課
- 情緒障害児短期治療施設
- 上智大学大学院
- 四天王寺福祉事業団四天王寺さんめい苑
- 横浜国立大学大学院
- (財) 全国精神障害者家族連合会
- つくば国際大学
- 九州看護福祉大学
- 大正大学大学院
- 東北福祉大学感性福祉研究所



# 第18期日本学術会議の活動報告 (1)

## ●会員及び「福祉研連」の委員の任命経過

第18期日本学術会議は、2000年7月22日に発足し、日本社会福祉学会が推薦した大橋謙策が、日本学術会議の社会福祉・社会保障研究連絡委員会（以下「福祉研連」と略、日本学術会議の正式略称）に登録が認められた22の社会福祉系学会の推薦人会議において、日本学術会議の会員に推挙され、内閣総理大臣から7月22日に任命され、会員となりました。

その後、第16期、第17期「福祉研連」の申し送り事項及び日本学術会議の考え方にに基づき、「福祉研連」委員候補が推薦され、10月1日付けで任命されました。研究連絡委員会の委員選出は基本的に、①登録学会から会員候補並びに推薦人として選出された人を第一義的に考える、②登録学会の会員数を考慮して、「福祉研連」委員の配分を考える、③女性研究者の比率を高める、④今後必要とされるヒューマンケアサービスとの関係を考慮する等の基準に基づき推薦されました。「福祉研連」の委員は以下の通りです。

田端光美、岡本民夫、白澤政和、高橋重宏、  
古川孝順、牧里毎治、山崎美貴子、川村佐和子、  
大橋謙策（会員が兼務）

「福祉研連」の第1回会合が11月10日に行われ、委員長に大橋謙策、幹事に田端光美、高橋重宏を選出しました。また、「福祉研連」の活動を支える幹事補佐として、中野敏子、中野いく子、市川一宏の3氏を選出し、就任いただけることが決定しました。

なお、第13期～15期の会員であった一番ヶ瀬康子先生と第16～17期の会員であった仲村優一先生に福祉研連顧問としていろいろアドバイスいただくことを決めました。

## ●「福祉研連」の活動

「福祉研連」の第1回は11月10日に行われ、第17期からの引き継ぎや決算報告、第18期の活動方針について討議されました。第18期の活動の中心は、①文部科学省及び日本学術振興会に働きかけて、科学研究費の分科、細目の区分において社会福祉学を社会学細目から独立させる活動を行うこと、②2000年5月に結成された「ソーシャルケアサービス従事者養成・研修研究協議会」の活動を支援する意味も含めて、第17期からの引き継ぎ事項である「ソーシャルワークを展開できるシステムづくりと社会福祉教育の条件整備」について検討すること等を討議しました。その後、第2回を

2001年1月5日、第3回を3月2日、第4回を5月25日に開催しました。

第3回の「福祉研連」では、委員長である大橋謙策が日本学術会議の特別委員会である「ヒューマンセキュリティのあり方委員会」の委員に任命されたこともあり、「社会福祉・社会保障の立場から考えたヒューマンセキュリティのあり方」について討議しました。田端光美、牧里毎治、市川一宏の3氏の検討素案を基に討議しました。それを受けて、大橋謙策が3月22日に特別委員会で報告しました。

なお、「福祉研連」母体になる「福祉研連」登録学・協会の2000年度第1回の会合が12月19日に開催されました。代表権を有する人の参加学会は11でした。その席上、科学研究費の取り組み方が討議され、基本的に「福祉研連」登録学・協会の世話学会である日本社会福祉学会に委任することが認められ、実質的に日本社会福祉学会に設置されている「社会福祉学研究助成振興委員会」が科学研究費のあり方（審査の考え方）等について審議していくことが了承されました。

また、「福祉研連」として7月7日に地方学術集會を行うこととし、広島国際大学の右田紀久恵、岡崎仁及び広島女子大学の鈴木勉先生方を中心に準備をお願いすることになりました。日本社会福祉学会の中四国部会と日本地域福祉学会の中国部会等関連団体と共催する形で準備が進められています。

更に、『福祉研連ニュース』第3号が3月1日に刊行され、登録学・協会の役員及び日本社会事業学校連盟加盟校等に約1,200部が配布されました。

## ●科学研究費に関わる活動

第18期の「福祉研連」の課題の大きな一つは科学研究費において社会福祉学を独立させることであり、かつ社会福祉学研究において研究助成に対する取り組みを強化させ、研究助成申請水準の向上を図ることです。11月14日に行われた日本学術会議第1部関連学会懇談会の席上でも、社会福祉学の独立を訴え、他の研連関係者からも支持する意見がだされました。また、11月中に日本社会福祉学会、日本地域福祉学会をはじめいくつかの学会が文部省（当時）学術局研究助成課に対し社会福祉学独立の陳情書を提出してくれました。12月19日に開かれた第1回の「福祉研連」登録学・協会でも基本的に上記に述べたように考え方が了承されました。それを受けて、1月7日に「福祉研連」の小委員会が、1月29日に「社会福祉学研究助成振興委員会」

が開かれ、科学研究費のあり方についての討議が行われました。

その後、日本学術会議第1部の日本学術会議が2月15～16日、3月23日に行われ、いろいろ論議はあるものの、日本学術会議第1部として、科学研究費の細目として社会福祉学を独立させること、できれば分科として独立させることを文部省及び日本学術振興会に申し入れることが事実上了承され、折衝に入っているのが現段階です。

その後、平成14年度の科学研究費の審査委員の推薦依頼が日本学術会議よりありました。平成14年度は従前と同じ社会学研連との合同審査になるので、以前了承されている考え方にに基づき推薦することになります。社会福祉学が独立した細目になれば、平成15年度以降の審査や審査委員の推薦方式も再検討しなければならないと考えています。

(2001年5月22日 大橋謙策)

## 日本社会福祉学会 役員選挙が行われます。

今年は第20期の役員選挙の年にあたります。坂田周一選挙管理委員長、高山直樹氏、中谷茂一氏、村井美紀氏、和気康太氏により選挙管理委員会が設置されました。

ここ数回の選挙の投票率は異常に低率です。21世紀初頭3年間の学会のあり方を決める重要な選挙になります。

投票は7月21日(土)必着です。

投票用紙は、6月下旬に新しい名簿とともに郵送されます。必ず投票をお願いします。

(総務担当理事 高橋重宏)

## 2000年度退会者

(2001年3月3日理事会承認)

|        |                   |
|--------|-------------------|
| 石田 弘志  | 名古屋短期大学           |
| 板橋 登美  | 社会福祉法人東北福祉会       |
| 伊藤 郁子  | 東海福祉情報観光専門学校      |
| 伊藤 隆二  | 東洋大学              |
| 岩間 紀子  | 済生会京都府病院福祉相談室     |
| 大野 明良  | 聖カタリナ女子大学         |
| 小川 義光  | 東奥女子高等学校          |
| 奥寺 勇   | 光星学院八戸短期大学        |
| 小栗 和美  | 福岡聖恵病院            |
| 巖 基 郁  | 広州女子大学            |
| 片寄 敦子  | 帝京大学老人保健センター      |
| 金井 その枝 | 園田学園女子大学短期大学部     |
| 菅野 重道  |                   |
| 我喜屋 良一 | 琉球大学              |
| 北原 常男  | 神郷の園              |
| 木藤 茂男  | 拓殖大学北海道短期大学       |
| 児玉 典子  | 諏訪児童相談所           |
| 小林 巳紗  | 愛知県立保育大学          |
| 坂井 まり  | 昭和女子大学            |
| 佐川 一郎  | ウィリング横浜           |
| 釋 智徳   | 華頂短期大学            |
| 白神 潔   | (株)第一研磨工具製作所      |
| 菅 真知子  |                   |
| 武田 公子  | 京都府立大学女子短期大学部     |
| 谷川 美紀  | 医療法人若弘会老人保健施設竜間之郷 |
| 鄭 鍾祐   | 聖公会大学校            |
| 甘楽 昌子  | 東京都児童相談センター       |
| 友末 弘子  | 船橋市東簡易マザーズホーム     |
| 中西 啓一  | 岡山県立総合社会福祉センター    |

|       |                  |
|-------|------------------|
| 中西 治男 | 大垣女子短期大学         |
| 中村 俊之 | 知的障害者入所更生施設やまぶき園 |
| 西村 和正 | 岡山女子高等学校         |
| 長谷川 彰 |                  |
| 林 綾   | 帝京大学付属溝口病院       |
| 朴 貞蘭  |                  |
| 樋尻 千鶴 | 大阪成蹊女子短期大学       |
| 藤本 文朗 | 華頂短期大学           |
| 松尾 信亮 | 華頂短期大学           |
| 松谷 省三 | 神戸学院女子短期大学       |
| 光永 輝雄 | 水俣市立総合医療センター     |
| 三辺 玲子 | 芦屋芸術情報専門学校       |
| 宮脇 源次 | 淑徳短期大学           |
| 森本 正昭 | 日本福祉大学           |
| 山口 透  | 金城学院大学           |
| 山本 淑江 |                  |
| 米沢 俊枝 | 小県福祉事務所          |

## ●ご逝去された会員

|        |               |
|--------|---------------|
| 瓜巢 憲三  | 社会福祉法人 旭児童ホーム |
| 大塚 茂幸  | 聖ヶ丘教育福祉専門学校   |
| 大橋 綾子  | 尚綱大学          |
| 大間知 千代 | 同朋大学          |
| 岡田 武世  | 熊本学園大学        |
| 小坂 和夫  | 郡山女子大学        |
| 許斐 有   | 駒沢大学          |
| 社本 修   | 明治学院大学        |
| 高萩 盾男  | いわき明星大学       |
| 矢ヶ崎 誠治 | 清泉女学院短期大学     |



## ブロック 活動

### 各ブロックの活動をご紹介します

## 活動

#### 北海道部会 2001年度事業計画

1. 第40回北海道社会福祉学会大会・総会の開催  
開催予定日 2001年11月
2. 研究例会の開催  
年間3回を予定
3. 学会誌「北海道社会福祉研究 第22号」の発行  
発行予定日 2001年11月
4. 理事会の開催
5. 会員名簿、会費納入の整理
6. 会員の拡大  
昨年度加入者5名、退会者5名、2001年3月末現在の会員数169名  
今年度も引き続き会員拡大に努める。

#### 中部部会 2001年度活動計画

1. 春の例会の開催  
2001年4月21日(土)～22日(日)
2. 秋の例会の開催  
(日程は7月の幹事会で決定)
3. 幹事会の開催、ニュースの発行

#### 関西部会 2001年度事業計画

- (1) 理事会(2回)  
①2001年11月17日(土) 梅花女子大学にて  
②2002年2月 日( ) 梅花女子大学にて
- (2) 役員会(4回)  
①2001年9月中旬(年次大会に向けて)  
④2002年2月中旬(研究報告大会に向けて)  
②③は日程未定
- (3) シンポジウム打ち合わせ会
- (4) 年次大会
- (5) 研究報告会
- (6) ニュースレターの発行(2回)  
①2001年7月頃 2001年度 No.1 発行

②2001年12月頃 2001年度 No.2 発行

- (7) 事務局会議  
梅花女子大学のスタッフで適宜開催
- (8) 機関誌の発行(1回)
- (9) 講演会の開催
- (10) 会員名簿の作成(8月上旬)
- (11) 機関誌の発行について  
<登載予定>  
・巻頭言 岡本民夫会長  
・「障害者介助時の事故についての考察—善意の介助から—」 土田耕司(兵庫県立赤穂精華園)  
・「[身の上相談]の分析、その方法と結果—『女性相談』に浮かびあがる昭和初期の母子問題—」  
今井小の実(大阪体育大学短期大学部)  
・「地域福祉計画における公私関係の構築過程に関する基礎的研究」 玉置好徳(梅花女子大学)  
・「介護保険制度実施に伴う市町村行政の課題—兵庫県下市町村アンケート調査結果から—」  
山本恵子(近畿福祉大学)  
・「ケアガイドラインに基づくケアマネジメントの可能性と問題点—精神障害者のケースマネジメントの機能に関する比較研究—」  
三品桂子(京都府園部保健所)  
・1999年度シンポジウム内容(抄)  
・1999年度公開講演会内容(抄)  
「スウェーデンの社会福祉とソーシャルワーク」  
スベン・ヘッスレ博士
- (12) 理事・監事の選挙について
- (13) 次期担当校について
- (14) その他

#### 中国四国部会 2001年度事業計画

1. 中国四国部会運営委員会の定例化  
昨年の秋に、念願であった部会の運営委員会が成立したので、これを定例化し、以下の事業を推進するとともに、会報を発行します。
2. 日本社会福祉学会中国四国部会第33回大会の開催  
今年度の部会の大会は、2001年7月8日(日)に県



## 活動

### 各ブロックの活動をご紹介します

## ブロック 活動

立広島女子大学を開催校として実施します。前日の7日に、社会福祉研究をテーマとする日本学術会議・夏季学術研究集会が、広島で開かれることに急遽決まったことから、これに合わせて部会大会を開催することにしました。昨年開かれた部会の総会では、開催は6月と確認されたのですが、部会運営委員会によって日程変更が了承されましたので、ご協力をお願いいたします。

#### 3. 日本学術会議・夏季学術研究集会の開催協力

日本学術会議第1部会から大橋謙策会員（日本社会福祉学会学会会長）を通して、夏季学術研究集会の広島開催を要請され、当部会は日本地域福祉学会および日本介護福祉学会中国部会、広島県・市の社会福祉協議会、広島県社会福祉士会、同介護福祉士会などとともに実行委員会を結成して、研究集会の成功に役割を果たすことになりました。

夏季学術研究集会は、7月7日（土）午後1時から、

県立広島女子大学を会場として開催されることが決定されました。講演者はいずれも社会福祉研究において重要な貢献を行い、日本社会福祉学会で学会長（代表理事）も歴任された、一番ヶ瀬康子、三浦文夫、仲村優一の諸氏です。

中国四国部会の会員の皆様には、この研究集会と翌日開かれる第33回大会との連続参加を呼びかけるものです。

### 九州部会 2001年度事業計画

事業計画として、第42回（2001年度）九州部会大会は、久留米大学文学部社会福祉学科の担当で開催される予定である。時期、大会テーマ、会場等については、開催大学と九州部会運営委員会にて協議のうえ決定するが、現在の時点では未定である。

### 「Japanese Journal of Social Services No.2」の紹介

英文論文を掲載している英文誌の2号です。本号も1号と同様、海外の関係大学・同図書館、研究機関等に送付しています。

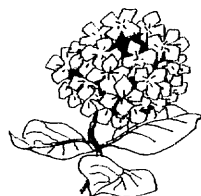
お申し込みは学会事務局まで（JJSS No.1も在庫あります）。ご入用の方はハガキ、FAX、Eメールにてお願いします。折り返し、本と振込用紙を送ります。

#### 日本社会福祉学会発行英文誌（JJSS）No.2 概要

2000年5月刊行／論文数19編／B5判／200頁

定価 1,000円＋送料

JJSS No.1 定価 1,000円＋送料



### 社会福祉学会発行「機関誌」 「報告書」等 在庫の紹介

下記の1から3までの出版物をご希望の方は、事務局までお申し込みください。

1. 『社会福祉学』バックナンバー（ホームページに目次を掲載しています。ご活用ください）
  - ・16号（1975年）～19号（1978年）
  - ・25-1号～29-2号（ただし25-2号、26-1号、26-2号、27-2号、28-2号を除く）
  - ・30巻1号～39巻2号（ただし33巻1号を除く）
 以上すべて1,600円（送料共）
2. 『社会福祉における国際協力のあり方に関する研究』理論・実践編
 

1997年刊行／B5判／80頁／定価500円＋送料
3. 『社会福祉における国際協力のあり方に関する研究』基礎研究編
 

1994年刊行／B5判／80頁／定価500円＋送料
4. 『社会福祉の国際比較』阿部志郎・井岡勉編
 

定価5,250円 有斐閣（会員は割引あり）  
直接書店（FAX 03-3262-8035）に申し込むか、大会会場で購入してください。



## 会員のおたずね

下記の会員は、学会ニュースNo.25で連絡がとれていないことをお知らせいたしました。再度おたずねいたします。お知りあいの方がいらっしゃいましたら事務局まで、ご連絡ください。

なお、次回理事会（7月14日予定）までにご連絡が取れない場合は、理事会で「退会の審議」の対象とみなすこととなります。

井出 恵美子 第一かもめ学園  
 井上 真樹 東京都精神障害者家族会連合会  
 今津 小貴美 北星学園大学  
 岩野 聡美  
 小山田 正志  
 金子 勇 国立身体障害者リハビリテーションセンター  
 金 龍澤 東洋大学大学院  
 小林 誠一  
 佐々木 民雄 東京都心身障害者福祉センター  
 志岐 生子 城南福祉医療協会 大田病院  
 相馬 和雅 淑徳短期大学  
 成 明玉 韓国釜山大学校社会科学大学社会福祉学科  
 池 貞 林 東洋大学大学院  
 崔 京翊 聖十字福祉専門学校  
 千原 加奈代 仙台市医療センター 茂庭台豊齢ホーム

陳 銀 玉 日本女子大学  
 中沢 庄平 第一法規出版  
 中澤 弘幸 湘南学園  
 中元 久美子 大阪府立看護大学医療技術短期大学部  
 永治 敏子 日本福祉大学大学院  
 西岡 貴美枝 西九州大学

西村 隆  
 仁平 一夫 カリフォルニア大学  
 布柴 靖枝 神戸市灘福祉事務所  
 橋本 美紀 日本福祉大学大学院  
 七辺 憲介 社会福祉法人ふじ寿か園ディサービス  
 水谷 信子 静岡県立大学短期大学部  
 南 英子  
 柳川 道代 淑徳大学 社会福祉学研究科  
 山口 昇  
 山崎 聡子 安田生命社会事業団  
 山下 憲昭 龍谷大学  
 尹 晟郁 同志社大学大学院  
 吉見 香 岩見沢児童相談所  
 渡辺 登

## 事務局連絡

▲ 4月末に2001年度の会費の請求をさせていただきました。納入についてよろしく願いいたします。会費を公費でお支払いいただくなどのため、別途請求書、領収書が入用の会員は、用紙をご用意ください。また、恐れ入りますが、返信用封筒や切手はをご用意ください。

▲ 本年度は、役員選挙の年となり、選挙人名簿を作成しました。冊子の名簿は次回選挙のときまで作成いたしません。今年度より、CD-ROM版名簿を毎年作成し、有料頒布いたします。ご利用ください。

▲ 機関誌『社会福祉学』へ投稿される方は、共同研究の場合でも全員会員でなくてはなりません。次の理事会は、7月14日です。入力事務の関係上6月末までに申し込み書をお送りください。

## 学会ニュース 編集後記

2001年度最初のニュース発行が遅れ、申し訳ありません。白澤委員長報告にありますように、検討委員会中間報告を同封しましたので、ニュース記事にあわせてお読み下さるようお願いいたします。

(田端記)

\* \*  
 発行人 大橋 謙策 学会ニュース27号  
 編集人 高橋 重宏  
 発行日 2001年6月1日  
 発行 日本社会福祉学会  
 〒160-0008 東京都新宿区三栄町8  
 森山ビル西館501  
 TEL.03-3356-7824 FAX.03-3358-2204  
 Email jsssw@ma3.justnet.ne.jp  
 URL http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jssw/  
 (印刷/原孔版)  
 \* \*